学ぼうみんなのさいこうの笑顔のために

堀　洋元　　准教授
（人間関係学部　人間関係学科　社会・臨床心理学専攻）

本プロジェクトは、ゼミ学生が地域の方々と連携して行う出前防災講座として始まり、2016 年度から継続して取り組み、今年度は 7 年目を迎えた。

1 年目は「女子大学生の視点を活かした出前防災講座」というプロジェクトテーマで多摩市総合福祉センター、多摩市社会福祉協議会と連携して活動した。その成果は、多摩市総合福祉センターで開催された福祉大会において「女子大生による出前防災講座～大妻女子大学のゼミ生が独自の視点から考えた体験型の防災講座！」として行われた。2 年目は「学生の視点と地域のニーズを活かした出前防災講座」として多摩市総合福祉センター、多摩市社会福祉協議会と連携し、地域住民への事前アンケート調査をふまえて実施した。その成果は、福祉フェスタ 2017（多摩市総合福祉センターで開催）において「今日からできる 5 つの防災対策」として行われた。3 年目は「唐木田発：学生と地域でコラボする体験型防災講座」として、多摩市社会福祉協議会、ほっとネットしょうぶ（唐木田・中沢・山王下等地区地域福祉推進委員会）の有志と連携して活動した。その成果は、大妻多摩祭（大妻女子大学多摩キャンパスで開催）の展示企画のひとつとして、体験型防災講座を行った。4 年目は「体験から学ぶ防災～防災と言わない防災を目指して～」として、昨年度に引き続き多摩市社会福祉協議会、ほっとネットしょうぶ有志と連携して活動を行った。5 年目は「“防災と言わない防災”の実現に向けた私たちのチャレンジ」として、コロナ禍で活動が制限される中、多摩市 ONLINE 文化祭にエントリーして、日常における防災の取り組みについて発信する機会を得た。6 年目はコロナ禍による影響が続く中でオンラインによる防災食レビューや震災語り部からの学び、そして地域防災講座での地域の方々とのグループワーク参加など、今できる取り組みを行った。今年度は全面的に対面で精力的に活動を行った。その取り組みについて報告する。



大妻多摩祭でのフライヤー

〔目的〕

プロジェクト活動 7 年目である今年度は、本プロジェクトは「防災」をキーワードに、学生が地域の方々と連携して地域防災力向上への一助を目指すものである。ゼミ学生を中心としたこのプロジェクトは、独自の防災イベント実施を活動の成果と位置づけ、2016 年度から継続して今日に至っている。防災に関する知識を体験的に学び、身につけた学びを地域の方々に拡散し共有することが目的である。

今年度のタイトルは 4 年生による昨年度の活動をふまえ「みんなで防災大作戦！～防災を日常に～」につながるメッセージをもとに 3 年生が命名した。今年度のプロジェクト名は『学ぼう　みんなのさいこう（最高）の笑顔のために』とした。地域の方々にも親しみやすいよう「防災」という言葉を直接使わず、タイトルに「ぼうさい」の文字を隠すことで堅いイメージをなくした。また、防災についての知識を身につけ、地域の方々に安心・安全に笑顔で過ごしてほしいという学生からの機知に富んだメッセージである。

〔プロジェクトの概要〕

1. 前年度の活動報告と引き継ぎ　今年度の活動計画　4 年生が 3 年生に向けて、前年度の活動報告を行った。オンラインで実施した防災食体験、地域住民対象の防災講座で行ったグループワーク、学外防災施設での災害対応に関する体験学習についてスライドを用いたプレゼンを行い、今年度は対面での活動を視野に入れて精力的に取り組む方針を確認した。

2. 学外防災施設での体験的学び　夏休み期間中に、都内にある防災施設での体験学習を行った。そなエリア東京ではリアルに作られた地震直後の東京を歩きながらタブレット端末を使ってクイズに答え、直下地震にどのように対応すべきかを学んだ。また、本所防災館（写真右）では過去の大震災を再現した地震の揺れ体験、煙火災を想定した避難行動体験、局地的集中豪雨を想定したドアの開放体験などを行うことで災害の危険性について知り、自身の防災対応力を自覚する機会にもなった。



3. 体験的な学びを活かす　～大妻多摩祭での体験展示～　10 月に行われた大妻多摩祭（写真右）では、学内外での体験学習の中から PET ボトルでの心肺蘇生法訓練、PET ボトルでのランタン作り、防災食の食べ比べ体験、マンホールトイレや段ボールベッド、携帯用浄水器、ゴミ袋を使ったシェルター展示を行い、2 日間で 100 名を超える参加者があった。「体験して学ぼう」とのキャッチフレーズ通り、多くの来場者が防災を体験的に学ぶ場となり、企画した学生にとっても自分たちが興味を持った防災体験や知識を親しみやすく発信する貴重な機会となった。



4. 地域住民対象の防災講座への参加と地域の方々との交流　ほっとネットしょうぶ（唐木田・中沢・山王下等地区地域福祉推進委員会）の定例会（写真右）で防災講座を実施した。大妻女子大学との連携講座「防災について」の講演および成果報告を行った。成果報告では学生がプレゼンテーションを行い、地域の方々にとって気がかりなこと、防災ゼミでの取り組みに関する意見を集計した内容の発表を行った。今回得られた意見やニーズを参考にして、地域の方々に向けての協働活動を提案する非常に貴重な機会となった。



5. 在宅避難を想定したアレンジ料理の体験学習　これまでのプロジェクト活動を通して「食」に対する興味や関心が多く、学生のみならず地域の方々のニーズもあったため、防災食の食べ比べだけでなく日常でよく利用する食材､保存がきく食材を使って簡単に調理できるアレンジ料理実習を行った。これまでは実際に防災食を食べてみて、食糧備蓄を見直す取り組みをしてきたが、冷蔵庫に保存しているものも含めてローリングストックを実践してみることで、新たな課題も見つかった。

〔プロジェクトの効果と今後の展望〕

今年度プロジェクトの中心となった 3 年生は、入学当初からオンライン授業で学ぶことが多かった世代であったが、今年度のプロジェクト活動では学内外で対面での取り組みを精力的に行った。コロナ禍で思うように活動できなかった世代がなしえなかった取り組みを積極的にそして主体的に進めており、地域だけでなく SNS を利用した発信も行い、大いに活動成果を形にすることができた一年であった。防災と日常をひとつにしていくための活動をアップデートしながら今後も継続していく。